

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400087		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム太田		
所在地	愛知県半田市乙川太田町1-7-1		
自己評価作成日	H23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	H23年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している小規模多機能との交流も活発で、地域への行事への参加も積極的に行っています。周りには大きな公園・スーパー・小学校・中学校があり地域に根差した施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して半年がたち利用者もホームでの生活に慣れ始め、くつろいで過ごせるようになっていく。職員は利用者にとってホームが、自分の家のように安心できる場となるよう寄り添う姿勢を大切にしている。利用者がやりたいことや望んでいることを引き出せるような言葉かけや関わりを行い、利用者に「楽しかった、良かった」という記憶が1つでも多く残るような支援に取り組んでいる。また運営推進会議で出された家族からの要望や意見を、迅速にサービスに反映させ、家族との信頼関係とより良いホーム作りに努めている。今後は自治会などを通して積極的に地域交流を図り、より多くの人にホームを知ってもらおう働きかけをしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの最後に法人理念の復唱を職員全員で行い、理念に沿った介護を目指している。	法人理念を毎日復唱し、職員間の支援の方向性の共有に努めている。また事業方針を目標とし、本人の意思に沿ったサービスや相手の立場に立ったサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りに参加・乙川幼稚園運動会見学・散歩・近所のスーパーで買い物等を行っている。近所への挨拶は盆暮れと行い、理解して頂くように努めている。	地域へ散歩や買い物に出かけた際は、挨拶を交わしている。またホーム近隣の家に挨拶回りをし、理解と協力が得られるよう努めている。	今後は自治会などを通して、地域の催し物や行事への参加を積極的に行い、交流の場を増やしていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への関わりかたが分からないご家族様からの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等は真摯に受け止め、実行するよう努めている。	家族や関係者の参加があり、定期的にホームの活動状況や課題などを報告している。食事のメニューや外出先などへの意見をもらい、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。事業所への見学等を積極的に受け入れている。	管理者が定期的に福祉課へ出向き、担当者との情報交換や状況報告をすると共に、ホームのパンフレットを窓口に置かせてもらい周知に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	色々な場面での出来事において、言葉使い・身体的なことに関して、何が虐待と言うのか、見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。	月に1回身体拘束に関する勉強会を行い、日頃の介護や言動を振り返る場としている。具体的な例を出して、何が拘束にあたるのかを話し合い、支援法の共有に努めている。また、管理者は気が付いた点があればその都度声をかけ注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	色々な場面での出来事において、言葉使い・身体的なことに関して、何が虐待と言うのか、見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開いて理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事項説明書、契約書、契約時に、改定時には説明文を作り、配布し分からない点については十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族からの意見等、職員みんなで共有し改善に向け努力している。	面会や運営推進会議などの際に、コミュニケーションを密に図り、家族や利用者の思いや意見を聞いている。依頼された要望は職員間で話し合い、共有を図りながら支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、職員の意見・提案を聞き、反映できるよう、心掛けている。	毎月実施しているミーティングで、業務内容や改善案を検討している。また各職員の意見や提案など聞くように、チームワーク作りを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にチェックリストを用い、各自目標を設定したことについて自己評価を行ったうえ、手、面接等を通して個々の状況について把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会への参加やミーティングでの勉強会でのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に法人内で勉強会等があり 意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して利用していただくよう、職員全員で成功を共有し、不安のない日々を送っていただくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活について、一日でも早く安心して暮らしていただけるよう、家族からの要望もお聞きし、問題点を無くせるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状態をきちんと把握し、今必要な支援は何かを検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の一日のリズムに合わせるよう動いている。尊敬の意を常に持ち、共に協力し生活を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意志を尊重しつつ、ご家族様と情報を共有しながら、ご家族様ができること、職員ができることをさせていただき、共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人様の面会や馴染みの場所への(畑等)外出等、支援している。	利用者は職員と一緒に近所の喫茶店や散歩に出向いている。また、家族の協力を得て、外食や買物へ一緒に出かける機会を設けている。	利用者の思い出の場所や以前から利用していたお店へ行くなど、個別支援の取り組みに期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活がより良い環境になるように、常に目を向け、職員全体で考え改善し続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時、相談に応じたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にご本人、ご家族への確認を行い希望・意向について職員間で情報を共有しあっている。	職員は日常生活の中で、本人にさりげなく聞いたり、表情や行動を見て察する。それを基に職員間で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族からも情報を貰い利用者の把握に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様、関係者の方より情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動、言動の変化を通して心身状態等 現状把握に努めている。1日の過ごし方を記録し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が出た場合、職員間、家族、ご本人と話し合い介護計画に反映させている。	モニタリングは日常のケアの中や朝の申し送りなどで随時行っている。また、家族の来訪時や電話などで話しをする機会に要望や意見を聞いたり、医師の助言などを踏まえて6ヶ月毎の介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記入し、より重要な情報は職員全員が把握出来るよう申し送っている。(介護について変更があった場合等)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、要望に答えるようにしている。(その方にあった介護)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校運動会の見学・夏祭りへの参加・公園への散歩等		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度の往診があり定期の診察にも行われている。	月2回かかりつけ医の往診がある。専門的医療が必要な人には家族が通院の付き添いをしている。ホームの看護師が適切な医療が受けられるようにかかりつけ医と協力医の窓口となっており連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師が、相談に応じる状況にあり、支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に医療従事者と連携が取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組みはされてない。	開設して8ヶ月ほどで、重度化や終末期に向けた取り組みはしていない。今後職員間で利用者や家族にとって最良な方策を検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急医療講習への参加を含め、訓練・勉強会をし対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度避難訓練を施設内で行い、年に2回消防署・ご家族様と共に行う避難訓練の機会を設けている。	同建物には、小規模多機能ホームと地域優良賃貸住宅が併設されており、合同で11月には夜間想定避難訓練を行っている。消火器の取り扱いや通報訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけの対応している。	職員は利用者を人生の先輩として尊敬しており、日常生活の中で言葉遣いには気をつけている。個人情報の保護に関して、書類などは目に付きにくい所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を構築し、何でも話せる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活の中でやりたくない・気にそぐわない事はせず、自由に過ごして頂くよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んで着られる方もみえる。又介助が必要な方に関してもご本人様と相談しながら、身だしなみを整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食を楽しんで頂けるよう好み物をお聞きし、出来るだけ沿うように努力している。	食事は配食センターからのものが配られていて、栄養バランスが考えてあるメニューとなっている。職員は利用者の力量に応じて、後片づけやテーブル拭きその他できることの場面作りをしている。しかし敬老会やクリスマス会など行事食は、配食ではなく利用者と職員と一緒に調理をして楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算はされている。身体の状態により量や材料を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を軽減するために定期的なトイレ誘導・排せつパターンを知り声かけを行い、トイレでの排泄を目指している。	利用者個々の排泄チェック表や利用者の表情や行動を見て、トイレに誘い自立に向けて支援している。夜間は概ね2時間置きに見守り、本人の様子を見て声をかけてトイレに誘っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便パターンを知り排便がスムーズに行えるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、無理強いせず、緩やかな対応で支援している。	入浴は概ね午後からの入浴となっている。入浴チェック表があり週3回は入浴してもらっている。入浴を嫌がられる場合は無理に進めずに、頃合を見て穏やかに話しかけ入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に合わせて休息していただいている。夜間も安眠して頂けるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を通し服薬情報はファイル保管されており、職員全員が理解している。病状に変化があった場合看護師に随時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の状態、ニーズを把握し支援するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿えるよう努力している。家族の協力を得て外出もしている。	天気の良い日は近隣へ散歩に出かけている。車で少し遠くにドライブがてら花見や買い物に行く時もある。また、家族と喫茶店や買い物に出かける人もいて戸外に出かける支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理されている方、事務所で管理されている方がみえます。外出支援によって買い物、喫茶店等でお金を所持し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人希望時、随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて雰囲気作りに努めている。	玄関には季節を感じるお雛さまが飾られている。居間はテーブルで寛ぐ人やソファーに座りテレビを観ている人もいる。トイレや浴室も清潔であり、居心地よく過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人のお気にいりの場・席があり、ゆっくり安らいで過ごして頂けるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を用意していただき、安心して暮らして頂けるよう支援している。	居室には、ベッド、テレビ、写真などが置かれスッキリと整頓された居室である。しかし利用者は居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を目指し職員が必ず見守れる体制にした上で過剰介護とならないよう努めている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392400087
事業所名	グループホーム太田

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 開所して半年程を迎え地域交流はまだ浅い状況ではあるが、利用者と一緒に地区の盆踊りに参加したり、近所の幼稚園の運動会へ見学に出かけるなど、ホームを知ってもらおう働きかけを積極的に行っている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 市や、地域包括支援センター職員、家族、区長などの参加協力を得て、2ヶ月に1回定期的に実施が出来る。会議を通して家族から、利用者の中活動の要望として、字がだんだん書けなくなっている為、何か書く活動をして欲しいとの意見が挙がった。利用者とは活動内容を相談し、日々の日記を付けることとなり、それを記録としてファイルに閉じていくようにした。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市が主催する講習や研修へ積極的に参加し、職員のスキルアップとサービスの質の向上に努めている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 利用者の日頃の様子を便りで定期的に知らせたり、体調の変化その他何か変わったことがあった時は、こまめに連絡を入れコミュニケーションを密に図るように努めている。家族や利用者から要望や意見が出た際は、支援状況に反映ができるようにしている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	/	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

を行う。